

目 次	
●会長あいさつ	1
●副会長あいさつ	2
●本部役員紹介	3
●専門部の活動	4～5
●郡市教頭会ネットワーク	6
●新入会員の声	7
●随想	8



## 乗り越えた試練を 創造的に課題を解決するための糧に

新潟県小中学校教頭会

会 長 泉 実

(上越市立東本町小学校)

令和2年5月の県小中学校教頭会理事会において選出され、代議員会の書面決議にて承認をいただき、会長を務めさせていただくことになりました。会員の皆様のご支援・御協力をいただき、関係諸団体との連携を図りながら、教頭会の研修主題である「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を推進していきたいと考えております。

さて、令和2年2月27日、政府からの臨時休業の要請を受け、新型コロナウイルス感染症への対応が本格的に始まりました。会員の皆様におかれましては、校長先生の御指導のもと、全教職員と力を合わせ、その対応の要となって職務に励まれていたことと存じます。

この対応には、膨大な時間と労力を費やしました。しかし、見方を変えると、学校における教育活動の見直しを、大胆に行う機会にもなりました。簡略化できる活動や取りやめる活動、実施する必要性を改めて感じた活動等が、明らかになったのではないのでしょうか。さらに、教師の働き方を新しい視点から見直す機会にもなりました。新型コロナウイルス感染症対策を、単なる負担として悲観的に受け止めるのではなく、教育活動の在り方、教師の働き方を見直す機会として捉え、意欲的に改革に取り組むことが求められます。

また、新型コロナウイルス感染症対策は、今後も継続し続けますが、さらなる予測不能な事態が発生することも覚悟しておかなければなりません。今まで当たり前に行われてきたことができない状況の中

でも、学校には児童生徒の学力保障や心身の健康など、様々な成果が求められてきます。今までは、実施する活動やその方法について、あらかじめ一定の条件が整った中で成果を出す方策を検討していました。しかし、これからは、過去の一定の条件が前提ではなくなり、正解がわからない中で成果を出していくこととなります。このような予測不能な状況において成果を出し続けるためには、教師自身が現在の状況を正しく理解し、あらゆる事態を想定したうえで、課題を発見し創造的に解決していく力が必要になります。新型コロナウイルス感染症により、その重要性がさらに明らかになり、例年どおりというマニュアルは通用しなくなりました。これは、未来を担う児童生徒に必要とされている、変化の激しい社会を生き抜く力に通ずるものであり、児童生徒のみならず、私たち大人もその力を高める必要があることを再認識しました。

今年度、新潟県小中学校教頭会ブロック別研究大会の実施を苦渋の決断で中止といたしました。発表者の方々をはじめ、準備を進めていただいた役員の方々、関係団体の皆様には、多大なる御迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今年度は、一堂に会することはできませんが、各校にて、目の前の児童生徒のために全力を尽くすとともに、試練を乗り越えるだけでなく、創造的に課題を解決することに努めていただきます。そして、「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の実現に全会員で取り組んでいきましょう。



## 今だからできることを

副会長 小島 淳  
(上越市立飯小学校)

臨時休業中、職員全員で動画配信用コンテンツの作成に挑戦しました。新年度が始まり一ヶ月も経たないうちの臨時休業でがっかりしている子どもたちに元気を出してもらいたい、学校とつながってもらいたい、という気持ちから取組を始めました。カメラワーク、言葉の選択、構成や演出、テロップや音楽の挿入等、初めてのことばかり。しかし、伝えたいことを時間内に分かりやすく表現するために四苦八苦した経験は、普段の授業づくりに大いに役立つ研修となりました。また、「動画でやっていたこと、家でやってみたよ」という反応は、励みになりました。

各校では、未履修内容の解消、行事の見直し、教育課程の改善、3密回避の取組、衛生管理の推進や徹底や、中止となった各種大会に代わる子どもたちの目標づくりにも知恵を出し合っていることと思います。当たり前でできていたことができなくなるといふマイナス面は確かに大きいですが、これまでの取組にとらわれないで新しいことを試す機会でもあるわけです。今を、「夢・志をもち、他者と協働しながら未来を切り拓く子供を育む学校づくり」の達成に向けての機会と考え、教頭としてできることを模索し、真摯に取り組んでいきましょう。



## 「不易も流行も」

副会長 寺井 昌人  
(長岡市立阪之上小学校)

今年度、小学校は学習指導要領の全面実施、中学校は移行期です。各校で首を長くして待っていた新教育課程の実施が始まりつつあります。しかし、昨年度末からの新型コロナのため順調とは言えない状況です。コロナ禍の中、計画を作っては壊し、壊しては作りという日々が続いています。また、価値観が多様化した現在、様々な意見が混在しています。私たち自身が学習指導要領にある「納得解」「最適

解」を求めていきたいものです。

ただ、新型コロナが学校教育にもたらすものも見え始めています。時数の制約の中で「何が身に付いたか」と学習の価値を成果で測ることが強調されたり、GIGAスクール構想にあるように個別最適化された学びの準備が進んできたり、不登校対応のように多様性を認める方向が示されたりしています。このことが不易になるのか流行なのかは少し時間がかかりますが、いずれにせよその両方を大切にしながら、教育活動を進めていきたいものです。この県教頭会が会員相互に学び合う場となり、県の教育活動をさらに推進していけるような会となれるよう精一杯努力して参ります。どうぞよろしくお祈りします。



## 今こそ協働の力を

副会長 前田 敏之  
(新潟市立下山中学校)

学校再開から、約一ヶ月が経とうとした頃、コロナ禍による心と体の状況を聞くアンケートを実施しました。多かった回答は、コロナ禍による生活や先行きに対する不安とともに他の生徒と会えたことや一緒に活動することの嬉しさや楽しさでした。

コロナ禍に対応しつつも、他者との関わりで心身の安定や自己の成長につなげることが学校の役割であり、責務であると再認識したものです。

さて、新潟県小中学校教頭会も同じであります。今年度はブロック別研修会も中止となっただけでなく、6月中旬の時点で、教頭会すら開けない地区が少なからずあると聞いています。課題や困難に遭遇した時には近くにいる教頭と相談し合っていると思いますが、より多くの教頭と情報交換し、相談し合い、より良い方策を考え出したい教頭も多いことでしょう。今年度の新潟県小中学校教頭会では、「他者と協働しながら未来を拓く子どもを育む」という言葉がサブテーマに入っています。しかし、このサブテーマを具現化するには、子どもの部分を教頭に置き換えて、活動を進めていくことが必要です。そのような新潟県小中学校教頭会となるように、泉会長を補佐し、会員の先生方のお役に立てるように頑張ってまいります。よろしくお祈りいたします。

# 令和2年度 本部役員紹介 (役職・氏名・現任校)

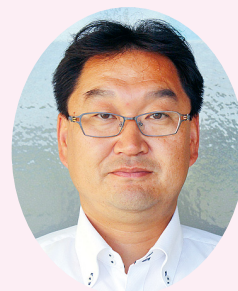
## 本部役員



幹事長  
若木 直弘  
(上越・南本町小)



会計幹事  
高波 英里  
(上越・浦川原小)



地区庶務幹事  
松岡 貴徳  
(上越・大手町小)



地区庶務幹事  
貝瀬 孝明  
(長岡・四郎丸小)



地区庶務幹事  
伊藤 裕之  
(新潟・西川中)



地区庶務幹事  
石塚 繁  
(阿賀野・神山小)

## 監査役員



会計監査  
飯塚 教裕  
(上越・直江津中)



会計監査  
山添 和人  
(長岡・川崎小)



会計監査  
逢坂 一郎  
(新潟・赤塚小)

## 事務局



事務局  
脇屋 雅実



事務局  
横田 誠

# 専門部活動紹介



## 調査要請部の活動

調査要請部長 長井 卓也  
(新潟市立矢代田小学校)

昨年度以来の新型コロナウイルスの影響により、全国公立学校教頭会の調査依頼が、一月遅れでようやく届きました。また、調査要請部会自体も開くことができないまま、全国及びの本県独自の勤務実態調査に取り組まなければならない状況となっております。このような中ですが、今までも増して、大きな負担が掛かっている教頭職における勤務の実態を明らかにして、関係機関及び団体への要望につなげていくべく、次の3つの活動の重点に取り組んでまいります。

- 全国の「教頭・副校長の基本調査」並びに本県独自の勤務実態調査を実施し、本県教頭の勤務実態を明らかにする。
  - 各専門部の研究や成果を踏まえ、新潟県小学校長会及び中学校長会と連携を図りながら、県教育委員会はじめ関係団体に対する要望書を作成する。
  - 勤務改善や要望事項の実現に向けた要請活動に努めることを通して、県教育の進展に寄与するとともに、会員の福利厚生・待遇改善を図る。
- これらの重点を踏まえ、次の2つの事業を柱に活動を実施します。

- 全国公立学校教頭会個人調査及び勤務実態調査（本県独自）の実施と調査結果報告書の作成
- 「令和2年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」の基礎資料作成のための調査実施と意見報告書の作成

先日各郡市教頭会事務局より配付された「令和元年度教頭の勤務実態調査報告」をご覧いただいたとおり、教頭職の働き方改革はなかなか進まず、依然として厳しい勤務実態であることがうかがえます。

県教頭会員の皆様よりご協力いただく各種アンケート調査の実施と報告・要望を通して、一人一人の会員の声を、各関係機関や団体に訴えていくとともに、全公教とも連携して勤務条件の改善につなげていきたいと考えています。



## 連帯意識を高め つながりを広げる

広報部長 朝井 宜人  
(糸魚川市立糸魚川小学校)

県教頭会広報部は、本会の活動方針や活動状況を紹介することによって、本会に対する理解と協力がいただけるよう努めます。また、教頭として取り組んでいることや考えていること等を紹介し合うことで、会員相互の連帯意識を高めたり、つながりを広げたりできたらと思います。

ただ、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響で、全国公立学校教頭会研究大会（岡山大会）、関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会（群馬大会）、新潟県小中学校教頭会（上越・妙高大会）は紙面発表大会、中止となってしまいました。例年、これらの大会で発表・参加された方には、会場で感じた熱や自身の学び等を伝えていただきましたが、今年度はそれができない状況です。全国的な課題である「業務改善」、会員の日常を垣間見ることができる「私の趣味」といった代替企画を予定していますが、今年度に限り、以下のとおり、発行回数を2回とさせていただくことにしました。充実した内容となるよう努めますので、ご理解いただきたく思います。

- 191号 巻頭言、本部役員の紹介、各専門部の活動紹介、郡市教頭会の紹介、新入会員の声、随想
- 192号 巻頭言、関東ブロック大会提言者の声、特集「我が校の業務改善」、郡市教頭会の紹介、「ちょっと一息私の趣味」、教育懇談会報告、随想

会報の発行に際しては、会員の皆様から原稿の執筆にご協力いただくこととなります。また、各郡市教頭会長の皆様からは、執筆者の選定や原稿の執筆依頼をお願いします。いずれも、ご多用のところ大変恐縮ですが、よろしく願いいたします。

なお、今年度より、業務改善と経費削減の観点から、会報のウェブ化を試みることにしました。合わせて承知おきください。

# 専門部活動紹介



## 令和3年度の ブロック別研究大会に向けて

研究部長 高橋 雅史  
(長岡市立中島小学校)

今年度、第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を受けて、新潟県教頭会として設定したサブテーマ「夢・志をもち、他者と協働しながら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（1年次研究）と新たに設定した内容で研究をスタートしました。

ただ、今年度予定していた研究部の活動の大きな柱である第56回新潟県小中学校教頭会研究大会・第12回ブロック別研究大会は、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。紙面発表等も行いません。これまで、各郡市教頭会でブロック別研究大会開催に向けての準備を進め、取組を積み重ねられていることと思います。しかし、本部役員会では、過去に経験したことのないコロナ禍の影響下で、児童生徒の安心・安全を守ることが教頭の重要な職務であることを最優先に考えました。各郡市教頭会の進捗状況の違い、今後の活動の見通しがもてない状況にあること、感染者がでた場合の影響が大きい等の事由により、代議員会の書面決議の結果を受け、中止の決定をいたしました。趣旨をご理解ください。

今年度の研究大会は開催できませんが、令和3年度のブロック別研究大会に向けての準備を進めていきます。令和2年度と令和3年度の各郡市教頭会への研究課題配当は、ほぼ同じです。今後、令和3年度に向けて各郡市教頭会で準備を進めることにより、令和2年度の実践をベースにさらに研究を深めることができるのではないかと思います。また、令和3年1月には、引継会を実施し、次年度主幹教頭会が早期にスタートできるようにします。

第11期の成果と課題を踏まえ、新たなサブテーマのもと、更なる「研究課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」を目指し、学校教育にかかわる様々な課題解決に関与できる教頭の資質・能力を高める機会にしていきたいと考えています。



## 教育課題部の活動

教育課題部長 多々良 儀仁  
(長岡市立東中学校)

臨時休業が開け、学校の教育活動も、油断はできませんが、徐々に落ち着きを取り戻しつつあるように思います。とはいえ、前例のない緊急事態の中、緊張の連続で、教頭としての責務の重さを痛感する毎日を過ごしています。皆様はいかがでしょう。目に見えぬ相手に対して、最新の情報に敏感に反応し、真偽を確かめ、手探りで対応する。まさに、答えのない事態に対峙している状況といえるのではないのでしょうか。そんな状況下で、ふと校内を見渡してみると、感染予防、拡大防止は、全校体制での取組と言いながら、養護教諭などの特定の職や担当に過重な負担をかけていたことに気づき、愕然としたこともありました。

そんな時に、アドバイスをもらい、気持ちの面でも支えになったのは、教頭会のネットワークと、今まで苦楽を共にし何でも気さくに相談できる仲間だと改めてありがたく感謝し、今を何とか過ごしているところです。

さて、今年度の第56回新潟県小中学校教頭会研究大会（第12回ブロック別研究大会）では、第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」のもと、サブテーマに「夢・志をもち、他者と協働しながら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（1年次研究）を掲げてスタートする予定でした。例年、先に掲げたテーマに迫るべく、「研究の連続性」「協働性」そして「教頭の関与性」を柱とした教育実践を持ち寄り、互いに検討したり、自校の実践と重ね合わせて、情報交換をしたりして、大きな成果を上げてきました。今年度は、一堂に会しての研究大会を実施することができません。しかしながら、この研究大会の主旨を受けて、関連した5つの教育課題の取組状況について、例年のように意識調査を実施し、日々の業務や今後の研究大会の基礎となるようにしたいと考えております。

皆様から回答いただいた調査結果を基に、教育課題部で集約・分析し、県小中学校教頭会のホームページや年度末発行の『教頭の勤務実態調査及び教育課題意識調査』（調査要請部と合同作成）に掲載する予定です。教頭として、今後の取組の在り方を考える一助にいただければと思います。

# 郡市教頭会ネットワーク



## 「お互いの顔が見える チーム糸魚川市教頭会」 の継承・発展へ

糸魚川市教頭会  
会長 平野 浩一  
(糸魚川市立糸魚川東小学校)

糸魚川市教頭会は、市が掲げる0歳から18歳までの子ども一貫教育方針「ひとみかがやく日本一の子ども」の実現に向けて活動をしています。現在、小学校14校、中学校4校、特別支援学校1校の教頭19名で組織しています。教頭会としての業務改善を進める一方、先輩方が脈々と築き上げてきた「お互いの顔が見えるチーム糸魚川市教頭会」のよさを継承して活動しています。

主な取組は、春季総会と秋季総会、研修会です。春季総会で役員組織や事業計画を協議し決定します。秋季総会では、次年度の方向付けを行っています。研修会は総会後に開催し、毎年、教育長様、市教育委員会指導主事様、市校長会長様から様々な視点からご指導をいただいております。また、研究推進部が中心となって、県教頭会研究大会に向け発表者の原稿やプレゼンづくりを支援しています。秋季総会後の研修では、その発表リハーサルを兼ねて会員全員で研修をしています。研究大会における課題配当が一定期間同じなので、自分事として研修を深める場になっています。もちろん研修後の会員同士の懇親会を必ず設定し、親睦も大いに深めています。

昨年度、関プロ新潟大会のため発表割当がなかったため、日頃の業務に関わる悩みを集約し、「多忙化解消の取組と働き方改革」、「学校運営協議会の現状・進め方」等のテーマを決めて情報交換を行いました。特に多忙化解消について具体的な取組を聞き合い、各校での新たな取組につながる研修になりました。

今年度、コロナ禍の影響で十分な活動ができない状況です。しかし、これまで通り教育支援システム回覧板機能を使って、お互いの情報交換をしてきました。今後、活動を軌道に乗せ、「お互いの顔が見えるチーム糸魚川市教頭会」として、子どもたちや教職員のために教頭会として尽力したいと考えています。会員同士の情報交換や情報共有、連携の3つを密に会務の運営や日々の業務に精進してまいります。



## 支え合い 高め合う教頭会

新潟市中学校教頭会  
会長 牧野 剛  
(新潟市立松浜中学校)

新潟市中学校教頭会は、新潟市8区の57校・中等教育学校・附属中学校の計59校、62名で活動を行っています。今年度のスローガン「支え合い高め合う教頭会」「明るく楽しく助け合う教頭会」を念頭に「令和2・3年度新潟市の学校教育」に示された課題を遂行するために、4つの【教育課題に関する部会】を組織しています。全会員がいずれかの部会に所属し、交互に企画・運営に携わることで会員相互の繋がりや主体性を高めています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、4月・5月の定例会議を自粛いたしました。また、県を越えての全国大会や・関東甲信越ブロック大会ばかりではなく、県内のブロック大会も中止または紙上発表大会となるなど、その影響は計り知れません。今まで御準備に粉骨砕身された担当の教頭先生方のことを思うと心が痛みます。

でも、こんなときだからこそ得られるものもあるはずです。今年度会員に加わっていただきました16名の新任の教頭先生方には、教頭会の良さ・ありがたさ・すばらしさを味わっていただきたいと心から願っています。各校での実践、「新学習指導要領への対応」「新潟市にふさわしい小中一貫した教育の構築」「若い次世代の人材育成」「働き方改革の推進」を共有しながら、それぞれの学校の未来を担う子どもたちを育ててまいりましょう。

今年度も、新潟市教育委員会・新潟市中学校校長会よりご指導を賜りながら教頭としての資質・能力の向上に努め、各学校の教職員が健康で生き生きと教育活動に専念することができるよう頑張ります。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応は、人と人の距離を広げました。だからこそ、互いの心の距離を今まで以上に近くできたらと思います。



## 「先を見て」 動ける教頭でありたい

妙高市立新井南小学校

水澤 勝 宏

新任教頭として赴任して3ヶ月、次々と発せられる新型コロナウイルス対策通知に目を通し、学校の対応を検討したり、問題なく実行されているか確認をしたりする日々が続いている。前任校では教務として横目で学んできた教頭の業務ではあるが、今年度は通常の業務とは様子がだいぶ異なるようである。

私の大きな課題は、「マルチタスク処理」が不得手なことである。複数の業務を迅速に処理できず、一つのことに関わりすぎてしまったり、他の職員に任せるべきところを自分で行ってしまったりすることでおさら時間が不足してしまうことが多い。

校長からは、ご自身の教頭経験をもとに、新任の私に対して、「先を見て」丁寧に指導をいただいている。また、新任の私にでも、「教頭先生！」と相談してくれる職員もいる。その思いに応えられない自分が非常にもどかしいが、管理職になったのだという思いを日々かみしめながら頑張っていきたい。



## 期待と不安の中で

加茂市立加茂中学校

細谷 大 祐

教頭として初めての赴任校が、伝統ある加茂中学校。新任校への期待と不安。それが大きな緊張となって着任当日を迎えました。着任直後は新型コロナウイルス対応や対策検討などで、あっという間に一日は過ぎていきました。そして、休校明けの学校再開。今までと違った光景はあるけれど、生徒たちは活気あふれ、今まで静寂だった学校は生気がみなぎっていました。

「青春の丘」と呼ばれる小高い丘の上に立つ加茂中学校。体育館より校舎、校舎よりグラウンドの方が高い位置にあります。校舎からは広大な越後平野や弥彦山を臨み、疲れを癒やす絶好の眺望です。教育目標「明るく たくましく 実践力のある生徒」を達成するため、生徒、教職員が一体となり、学校を盛り上げていけるよう取り組んでまいります。



## 山は今日も 大きく、優しい

小千谷市立東山小学校

鰐 淵 紀美子

初めて校区を訪れたとき、雄大な山の景色に迎えられ、思わず感嘆の声が出ました。学校は、東山に優しく包まれています。勤務が始まり、深い歴史や熱い文化が創り出している東山の誇りを感じています。また、震災を乗り越えた強さも感じます。

こんな素晴らしい東山の子供たちは、さすが！明るく素直です。仲間・地域の方々・職員等、相手としっかり向き合い、自分を高めようとします。夏に向かい山の緑が日に日に濃くなるように、子供たちも学びによりぐんぐん成長していくようです。

天気の良い日は、町内に牛の声が力強く響きます。今年度は牛の角突き5月・6月場所ができず、我が校の『牛太郎』も、うずうずしているようでした。子どもたちも牛も元気いっぱいです。この山の勢いにのり、私もできることを精一杯行い、ここに勤務できる喜びと感謝の気持ちを表していく所存です。



## 笑顔で元気を！！

佐渡市立松ヶ崎中学校

中 田 浩 司

教頭として初めて赴任する松ヶ崎中学校は、1つの校舎に小学校と中学校が併設されている小中連携校である。小学生7名中学生11名の極小規模校で、地域は過疎化が進み、数年後には中学生がいなくなってしまうという状況である。

学校では、総合的な学習の時間に中学生が地域おこし活動として地域のキャラクター作りや地元食材を使った名産品作りなどの活動に取り組んでいる。

生徒は、地域おこし活動を通じて故郷への愛を育み、課題の解決に向けてアイデアを出し合い、試行錯誤しながら活動を進め、自分たちを成長させている。

「学校から元気を発信して地域を元気にしていきたい。」子どもたちのそんな思いが未来の笑顔を創っていく。笑顔あふれる学校・地域のために私ができることを精一杯取り組んでいく。

## 随 想



## ステイホームの産物

三条市立本成寺中学校

笠原 崇史

「土日に部活動がないと、何をしていたかわからないんですよね……」

部活動ガイドラインにより、休日の休養日が増えた職員の「悩み」に、「何か趣味をもったほうがいいよ」と答えたのは今年の春だった。

あれから1年後、休日どころか平日の部活動もできず、休日はステイホームを余儀なくされた。「多忙化解消アクションプラン」も「働き方改革推進プラン」となったこのタイミングは、ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方、休日の過ごし方を考え実践する絶好の機会なのかもしれない。

かく言う私も、主にラグビーに費やしてきた休日の過ごし方を転換せざるを得なくなり、なぜかガレージで古いバイクの整備に費やすようになった。素人レベルの作業しかできないし、何日かかってもなかなか完成しないのだが、これが実に楽しい。

これまでは爽快感や心地よさを求めているのが、達成感や満足感を求めるようになったようだ。きっと、“仕事の自分”と“休日の自分”のバランスを、自分自身が知らず知らずのうちにうまくとっているのではないかならば、休日はあれこれ考えず、気の向くままに行動していこうと思う。

「足元」に  
目を向ける

魚沼市立堀之内小学校

小島 誠

「あざやかに あざやかに 立ちならぶ三つの山」私の大好きな当校校歌の出だしです。作詞したのは、宮柊二氏。大正元年旧北魚沼郡堀之内町に生まれ、昭和の時代に活躍した歌人です。皆さんは、この方をご存知でしたか。

柊二は、北原白秋に師事して短歌を磨き、自身の戦闘体験を描写した歌集「山西省」の刊行、歌誌「コスモス」の創刊など、戦後短歌界のリーダー的存在として、歌壇を牽引しました。現在も毎年、柊二の名を冠する短歌大会が開催され、全国からの応募があるほど慕われています。そして、その功績や故郷を愛する心により、旧堀之内町唯一の名誉町民の称号が贈られました。現在は、魚沼市名誉市民7人のうちの一人です。(直近の受賞者は俳優渡辺謙氏)

さて、ここまで柊二の足跡を記しましたが、当校の校歌を作詞したこと以外は、先日3年生と徒歩で見学に行った宮柊二記念館で初めて知ったことです。子どもたちと同様、近隣に住んでいながら、知らないことはまだまだ多いと、改めて感じたものでした。

コロナ禍で、制限の多い期間が続き嘆き節になりがちです。遠出も敬遠される昨今、見過ごされがちな「足元」に目を向けてみるのもよいですね。

令和2年度  
各種大会日程

- 1 全国公立学校教頭会研究大会岡山大会 紙面発表
- 2 第61回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会群馬大会 紙面発表  
第56回県小中学校教頭会研究大会 中止  
第12回ブロック別研究大会 中止
- 3 第72回全国人権・同和教育研究大会新潟大会 来年度へ延期

\*各研究大会への参加ご協力ありがとうございます。よろしく申し上げます。

新潟県小中学校教頭会  
[事務局]  
県教頭会ホームページ  
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル 2F  
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225  
https://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060  
http://www.kyotokai.jp/